

# 同窓会 たより

信州大学医学部保健学科同



## 保健学科同窓会二年目を迎えて

信州大学医学部保健学科同窓会会長 川上 由行

(臨嶺会会長：検査技術科学専攻 病因・病態検査学講座 病因・生体防御系 教授)

信州大学医学部保健学科は、今年2004年には第二期生を迎えました。そして、新入生は医学・医療の道への第一歩を順調に踏み出しました。また、昨年入学した第一期生は二年次となり、それぞれの専攻分野の専門科目も増え、希望に燃えて学んでいます。彼らが勉学に精励されて、実のある学生生活を過ごされるよう切望しております。

さて、保健学科同窓会は、会員相互の親睦を図り、母校との連携を保ち、母校の発展に寄与することを目的とし、これまでの後援会組織が発展的に解消するとともに、従来の短大時代までの学科単位・専攻単位の同窓会組織（アルプス会・桐の木会・臨嶺会・州嶺会）を包括して融合発展させていくことを確認し、昨年4月に発足しました。本会は、助産学専攻科を含む医療短大在校生と保健学科在校生への教育支援活動や、快適な学生生活を提供するための福利厚生関連を主とするものです。

信州大学は、今年4月から「国立大学法人信州大学」として歩み始めており、また各学部・学科単位の同窓会組織を包括する「信州大学同窓会連合（仮称）」が小宮山淳学長より提起され、その呼びかけに応じて保健学科同窓会もメンバーに加わりました。

発足まもない同窓会ですが、ホームページの開設、同窓会報（保健学科だより）の発行、カーティン工科大学短期留学の支援活動、図書費の補助、卒業祝賀会の補助、キャンパス見学会の補助、銀嶺祭や松本ぼんぼん等の学生課外活動の支援等々、よちよちながらも一年間歩んできました。

また、2004年度定期総会の開催に際しては、基礎作業療法学講座の富岡詔子教授による特別講演「くらしを創る ---生活を紡ぐ作業療法の技と心」を拝聴した後に、附属病院東10Fビュー270へ会場を移し、保健学科教員各位に加えて望月一郎先生はじめ懐かしいお顔や、保健学科在校生、医療短大在校生、そして卒業生との懇親会で交流を楽しむことが出来ました。ここで、卒業生や、元教員の特別会員の先生方には、同窓会発足後一年目の実情を把握していただき、今後の同窓会運営へのご意見を賜ることが出来ました。

なお、同窓会に対するご要望は、直接に近く同窓会役員（理事・幹事）までお寄せ下さい。今年の夏の異常な暑さに苦しんだ学生さんの強い要望により、同窓会から扇風機40台の購入予算の計上が承認され、保健学科への寄贈により各教室に配置することが出来るようになりました。本質的な解決にはならないかも知れませんが、次年度からの暑さ対策に多少は役立つことと思います。

また、同窓会総会や同窓会が主宰する講演会等につきましては今後ホームページで逐次案内をさせていただきますので、同窓会のホームページ（<http://alps2.shinshu-u.ac.jp/groups/hoken/>）を「お気に入り」に登録していただき、定期的にアクセスしていただければ幸いです。



保健学科長 成沢 和子

(看護学専攻 広域看護学講座 教授)

平成14年10月に保健学科としてスタートを切ってから2年がたちました。学生も教員も新しい取り組みの中で、それぞれ意欲的に歩きはじめております。教育の面では、総合大学にある医学部の一学科という位置づけを積極的に活用するカリキュラムが考えられています。その手始めとして、16年度4月から医学部の医学科、保健学科の新生を対象として画期的なゼミナールが開講されました。保健学科は一つの学科ではありますが、同窓会がライセンスによってそれぞれ独自の組織をもち、その上でひとつにまとまっているのと同様に、4つの専攻から成り立っています。このため共通教育を別にすれば、同じ教室で学び、討論する場があまりないのです。まして、同じ学部といっても6年制の医学科の学生と学びを共にすることは、従来のカリキュラムではま



たくできませんでした。この新生ゼミナールは、医学部に入学したすべての学生、医師、看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士を目指す学生が、一つのグループの中で医療について調べ、発表し、討論する場としてデザインされています。全国的にいてもほとんど類のない試みで、まさに医学部保健学科だからこそ実現したのです。将来のチーム医療をになう学生たちがこのような機会に、机を接して学び、意見を交換することは必ず貴重な経験となり、真の意味のチーム医療を可能にする大きな力になると信じています。

同窓会のお力添えをいただいている活動のひとつに、保健学科主催の公開講座・シンポジウムがあります。先年度は10月に「ガン看護と緩和治療」と題して、静岡がんセンター副看護部長、濱口恵子氏と副看護師長、遠藤久美氏をお招きしてご講演をいただき、その後本学の看護学専攻の教授も加わってパネルディスカッションを行いました。フロアからの発言も活発で、有意義な会となりました。さらに本年3月に学生と教員の研究会「ニーズからシーズへ」との共催でシンポジウム「高齢者・障害者・そして学生 信州大学も仲間に入れてもれませんか」を開催しました。このゆびと一まれ代表の惣万加代子氏、ぴあねっと21代表の大下京子氏をお招きして、これも多くの市民の方々の参加をいただき盛会でした。このような公開講座を通じて、地域のひとびとに保健学科を知っていただき、また保健学科が地域に発信していけるようにしたいと思っております。今年度も特色あるテーマで2回の公開講座を行うべく準備中です。

研究活動のほうでは、今年度からは松本市をはじめ地域との連携を主題にしたいろいろな取り組みが始まっております。この中でも「市民のヘルスプロモーション推進をめざした生涯にわたる健康学習支援システム構築に関する調査研究」という大きなプロジェクトを来年度以降動かしていくべく準備しています。こうした研究活動にはすでに地域でご活躍の同窓会の皆様方のお力が必要になります。どうぞ大学のスタッフと一緒に地域連携のプロジェクトに参加していただけますようお願いいたします。

結成して2年目の同窓会が卒業生と大学を結ぶ組織として成長されますことを心より願っております。



信州大学-カーティン工科大学間の学術交流協定にもとづき、平成16年度夏期海外単位認定プログラムが平成16年8月21日から9月11日の約3週間にわたり、カーティン工科大学およびパース市内およびパース市周辺にあるカーティン工科大学の関連施設および関連病院で実施されました。本年の認定プログラムに信州大学医学部保健学科と信州大学医療技術短期大学部（専攻科助産学特別専攻）の学生20名が参加しました。

ここでは、実際に参加した学生の感想を聞いてみましょう。

### Curtin工科大学での研修

看護学専攻1年 清水夕貴

今まで海外に出たことも、飛行機に乗ったこともなかった私にとってこの海外研修は初めてのことであり、とても刺激的なものだった。オーストラリアに着いて、まず日本とは比べ物にならない広さに驚いた。そのようにして三週間毎日、言葉、医療制度やホームステイだからこそ知ることができた文化の違いなどに触れることができた。そしてそのすべてがよい経験になったと思う。

私は英語に自信がなく不安だったため、初めはホストマザーのバーバラと会話をするのにとても緊張した。しかし、バーバラはゆっくり話してくれたし、聞けば何度でも繰り返してくれたので、だいぶ気が楽になった。そして少しずつ英語が聞き取れるようになっていくと感じた。相手の言いたいことがわかると話すのが楽しくなったが、その分自分の言いたいことがうまく伝えられないと悔しかった。英語が思いつかなかったこともあったし、簡単な単語でも発音が悪くて違うものにとられたりすることもあった。今まで声に出すこと

が少なすぎたと思うので、これからはもっとしゃべりながら英語を学んでいかなければならないと思った。

施設や病院の見学はとても刺激を受けた。Princess Margaret Hospital という子供病院は、壁にかわいい絵がかいてあったが、逆に思春期の子供たちの病棟は大人っぽくしてあった。また、ゲームセンターにあるようなゲームからバスケットボールのゴールまで置いてある遊び場や、ラジオ局など子供たちが少しでも幸せな気持ちになるような工夫がたくさんあった。退屈な病院で治療を受けるよりも回復する速さは絶対に速くなると思った。日本にはこれほど充実した子供病院はないと思うので、よいところはまねをして、総合病院の小児科でもこのような工夫ができてほしいと思った。そして、小児看護に前よりも興味がわいた。

今回、このプログラムを通してオーストラリアの医療制度について多くのことを知ったが、自分が日本の医療について何も知らないと実感した。前に勉強しておけば、もっといろいろな違いに気づけたと思うので何事にも予習は大切だと思った。順序はちょっと違うかもしれないけど、この熱が冷めないうちに日本の医療制度を勉強して、オーストラリアとの違いを見てみたいと思う。

## オーストラリアの広さから学んだこと 看護学専攻2年 中村真裕子

海外、ホームステイ、カーティン工科大学、私にとって全てが初めてでした。3週間悔いの残らない体験をたくさんしていこうと、勉強に観光に全精力をつぎ込んだ思いです。

英語もろくにできない私が何もかもが初めての環境に飛び込み、これからどんな生活が自分を待っているのかわからないのだから、期待をしている一方で不安と緊張でいっぱいなのは当然です。ですが、大学内を歩いてみると、様々な国の人、芝生の上に寝ながら本を読む人、りんごをかじりながら歩く人、皆が自由に過ごしていました。いくら冬の終わりとはいえまだまだ寒いオーストラリア、ノースリーブで歩いている人が少なくなかったことには本当に驚きました。と同時に、ここでは何をしても誰にも干渉されない、自分が良いと思うことはなんでもできるそういう国なのだわかった時、何とかなるだろうという安心感というか心のゆとりが生まれたのを覚えています。オーストラリアは日本の20倍もの面積をもつ大陸国家にもかかわらず、人口は日本よりも少ない。内陸はほとんど砂漠で、人口が集まるのはパースなどの主要都市がほとんどです。

flying doctorはオーストラリアならではのサービスと言えそうですが、オーストラリアは人口が多く集まる都市から離れてしまえばいわばへき地なので、flying doctorがいなければ重症患者の場合医療が成り立ちません。しかも空を飛んで患者を運ぶには、様々なリスクが加わってしまいます。何という危うい医療だろうと正直思ってしまいました。

へき地と呼ばれるところで働く看護師は多くいると思いますがオーストラリアでも日本と同様に看護師の数は不足しており、看護師の必要性には国境は無いようでした。

ですがその広さこそがオーストラリアの醍醐味なのです。視界いっぱいに広がる景色はあまりに広くてカメラには収まりきらず、そこでしか味わえない感動だったと思います。また、日本から出たことで、柔らかい表現ができる日本語のすばらしさ、豊かな水の恩恵に与れることの喜びを再確認し、そして自分が日本という小さな国の中にいるちっぽけな存在にすぎなかったこともわかりました。

飛行機に9時間乗っただけで、これだけたくさんの大切な発見、学びがあったのです。世界はもっと大きいです。この体験を忘れず、井の中の蛙にならぬよう広い視野をもてる私でありたいです。

## Curtin工科大学短期研修を終えて 検査技術科学専攻2年 松本由香

私がこのプログラムに参加しようと思ったのは、ホームステイにずっと興味があったためと、海外の大学教育や医療制度について知ることができるいい機会だと思ったからである。3週間もの間英語の中で生活できるか不安だったが、参加できて本当によかったと思っている。この3週間は

私にとってとても大切な時間だった。

1週目のEnglish Classは、明るくて楽しい先生方ばかりで、難しい医療用語も興味を持って勉強することができた。医者や患者役になって行ったロールプレイングで、実際に医療単語を使ってみることによって、楽しんで効果的に勉強できた。

2週目は専門的な講義になり、先生や通訳の方がいなかったら理解できなかったと思うが、普段は知ることができないオーストラリアのヘルスケアや看護について知ることができたことはよかったと思う。2週目で最も興味深かったのは、Royal Flying Doctors Serviceの見学だった。広大なオーストラリアの遠隔地医療において大きな役割を果たし、僻地に住む人々にとって必要なサービスだと感じた。飛行機の中という狭くて患者さんや医療機器にも様々な影響のある中でできる限りの治療を行うには、医師も看護師もより多くの知識と経験・体力が必要だろうと感じた。

3週目の病院・施設訪問では、それぞれの仕事に責任とプライドを持って働いた皆さんの人に会うことができた。Private laboratoryではスタッフの方と一っしょに実際の仕事をさせてもらった。PMHでは、子供たちのリハビリに使用されるおもちゃやトレーニングマシンなどを見ることができ、とても貴重な体験ができた。私は日本の子ども病院を見たことがないので比べることはできなかったが、日本の子ども病院のことやそこで行われているリハビリのことなども知りたいと思うようになった。Curtinの学生と一っしょに行った実習は、難しく大変だったが、親切な学生の言葉がとてもうれしかった。自分がもっと英語が話せれば、もっともっとたくさん話して仲良くなれるのにといいとも悔しかった。

この3週間で世界に目を向けることの大切さと広い視野を持つことの大切さを感じた。オーストラリアで感じたことや思いを、これから勉強していく中で忘れずに持ち続けていきたい。

## 私の夏休み

検査技術科学専攻2年 江島文恵

8月21日、成田空港出発。22日パース着。和式トイレを全く見かけなくなり海外にきたという実感が湧いてきた。この日から待望のホームス





ティが始まった。始めホストファミリーは“お父さんお母さんがいて、子どもがいて・・・”という家族を想像していたが、私のホストファミリーはマザーのジャッキーと犬2匹に猫3匹と、予想に反した構成であった。ジャッキーの家はとても可愛くて家に到着すると早速ドイツ犬のロミーとカイザが出迎えてくれた。実際この2匹はとても賢くジャッキーの言うことをよく聞く。はじめは、私よりも犬のほうが英語ができる・・・と思ったほどだ。その他、庭には大量のカナリアがいて、さらに12羽のチキンがいた。これらの動物たち（ZOO）を管理しているジャッキーはとても明るくてタフで親切な女性だった。おまけに料理がとても上手で、いつも片付いたキッチンで手際よくおいしい料理を作ってくれる。私たちがお皿洗いをしている間にもクッキーやスコーン、ケーキなどデザートを作ってくれた。彼女は私のつたない英語をきちんと聞いてくれた。話すときもジェスチャーを交えてゆっくり話してくれるのでジャッキーのいわんとしていられることをおそらく理解できたと思う。ニュースを見ながら何が起こったかを簡単な英語で解説してくれたりもした。私たちがオーストラリアに行っている間に何回かテロが起こったが、そのニュースを聞きながら“私たち一人一人が小さな橋になれば平和な世界になるのね”という話を何度かしてくれた。うまくいえないけど感動した。ジャッキーのおかげで素晴らしい3週間を過ごすことができた。ありがとうございました。

今回のプログラムに参加しての一番の経験は異文化の中での生活を送ったことである。とても気さくな人が多く、歩いていると挨拶をしてくれたり、迷子の私に丁寧に道を教えてくれたり・・・人々の声や表情がとても豊かだと感じた。日本でも気軽に挨拶することが普通になれば良いと思う。3週間しか滞在できなかったのですがどうしても「オーストラリアはなんていい国なんだろう」と思いがちであったが日本のいいところもたくさんあるはずだ。ジャッキーの家はとても居心地がよかったけれども日本に帰ってきてほっとしたのも事実である。お互いの文化のよさを認め合っただけでその国際理解だと思ふ。そういった意味で日本での私生活を見直して良くできることは変えていきたい。そして何よりも努力が必要なのは英語力を鍛えること。ジャッキーをはじめ、もっと話したかった人はたくさんいたのに歯がゆい思いを

した。英語の必要性を実感できただけでも本当によかった。これからはオーストラリアでの経験も活かし広い視野を持っていたいと思う。

## Curtin University 研修レポート

理学療法専攻1年 植松みさ希

「一期一会」この研修を通して出会った人、もの、事、すべてがまさにそれであったと思う。この3週間で私はいろいろな面で大きく成長できた。悲しいかな物理的にも著しく成長してしまった事は否めないが、オーストラリアという広大でのびのびした国で、lovelyで豊かな自然と温かい人々に囲まれて一生忘れることのできない大切な、大切な体験ができたし、私の中の世界が今までよりずっと大きく広がった。このような素晴らしい機会に恵まれた自分は本当に幸せだと思うし、この研修を支えてくださった先生方や現地スタッフの方々には心から感謝している。

オーストラリアでの生活の中心を占めたのはホームステイであったが、ここで最初にぶつかったのは言葉の壁だった。独特の訛りがある英語が初めは全く聞き取れなかった。初めの1週間はコミュニケーションというより何とか理解しようとするだけで精一杯だった。しかし2週目からだんだんと耳が慣れてきて、英語が聞き取れるようになってきた。家でも会話を楽しむゆとりが少し生まれ、とても嬉しかった。同時にこの週から合同講義が始まったのだが、大学の先生たちがゆっくり分かりやすく話してくれたこともあり、通訳と照らし合わせながらではあるが講義の内容をつかめるようになった自分にびっくりした。英語はまず失敗を恐れずに喋る事だと言う。確かにその通りだと思った。相手の問いかけに答えられた時や相手に言いたい事が伝わった時は本当に嬉しいし、その気持ちをやみつきになってもっと喋りたいと思える。でも何より自分のつたない間違いだらけであろう英語を理解しようとしてくれるオーストラリアの人々の優しさがありがたかったしそれが励みになった。会話が楽しめるようになってからステイは一段と楽しかった。初めは長いと思った3週間もあっという間で、空港についてもまだ帰る実感が湧かなかった。あんないい家にステイさせてもらった私たちは本当に幸せ者だった



と思う。

何よりこの研修を通じて実感したのはオーストラリアの人たちの優しさだった。どこで会った人たちもみな笑顔が絶えず、親しみやすく気軽に話しかけてきてくれた。

心が暖かくなるような体験も沢山した。本当にありがとう、全ての出会いに感謝しています。

## Curtin工科大学短期留学プログラムを通して

助産学特別専攻 山内沙織

今回のこの短期留学プログラムの存在を知った時、私は深く興味を持ち、是非参加してみたいと思った。私自身オーストラリアは2回目であり楽しみでもあったのだが、いざ生活が始まるとはじめは思った以上に言葉が聞き取りにくくまたオーストラリア特有のなまり、スラングなども多少理解しづらかった。しかし生活する上でなるべく英語で会話しようと努力した事で徐々に耳も慣れ、自分自身の行動範囲もどんどん増えていった。大学での授業は看護、臨床検査、理学療法それぞれ分野での専門講義やまた全体での合同講義、その他に施設、病院見学等それぞれに充実した内容でとても興味深いものばかりであった。看護の分野においてはオーストラリアは専門分野が発達し看護師もナースプラクティショナーなどの開業権を得る制度があり独自に機能していたり、助産師も切開や縫合の技術を学び施行している点、緊急薬剤は独自の判断で使える点なども教育が進んでおり日本との違いを感じた。また男性助産師がいる事も興味深かった。

その他、印象に残ったのが高齢者福祉についてであった。高齢者福祉施設などは広い土地を利用してホーム全体で一つの村を形成しており、とても快適に利用出来る事を知り、ここでも日本との違いを感じさせられた。

しかしその後の講義でそういった施設には入りたくても実は希望者が多くスムーズに入れられない現状などを知った時、充実した暮らしの中にあると思っていたオーストラリア福祉の抱える大きな問題点を垣間見た気がした。また高騰し続ける医療費を今後どう賄っていくかなどの課題や、アボリジニの健康問題も国全体で考えていかなければならない事、移民が大半を占めるためそれぞれの文化、健康に関する概念も多様である事等を学んだ。

今回、オーストラリアで学んだことで日本の介護保険制度や福祉制度を振り返る機会を得たが、日本の制度はとても整備され質の高いものになっていると感じる事が出来た。

オーストラリアまた日本のみならず、医療のシステムにおいて世界がそれぞれの国の長所を吸収し活用し合えばよりよい医療、福祉が行えるに違いないと思ったし、国は変わっても全ての人が充実した人生を送るために医療や福祉が発展するよう取り組むことは共通の課題であることを感じた。

私は今回の短期留学プログラムに参加し、今後も医療に携わるものとして世界に目を向けた医療福祉の向上を考えていけるようまた日本の中での対策向上などにも目を向け取り組んでいけるよう益々視野を広げ、学びを深めて行きたいと思った。

## 新入学生からの言葉

### 自分にとっての看護

看護学専攻1年 青木悠有

平成16年4月1日、僕は信州大学で看護というものを学ぶ事になりました。何故看護なのでしょう。ここで格好の良いこと、例えば、「自分は現在の看護界を変えるためにここ信州大学に入学しました」、とでも言えれば良かったのですが、残念なことにそうではありません。ただ単に、第一志望であった理学療法学専攻に大学入試の前期試験で落ち、一浪の身でもあった僕は、同じ医療職であり、今の自分でも絶対に合格できるであろう看護学専攻をたまたま選んだと言う訳です。小さなころのさまざまな経験から、漠然と「将来は福祉に携わる事のできる職業を選ぼう」と思っていました。そこで高校の頃、理系で福祉に関わるには何の職業に就けばよいかを探していた僕は、理学療法に惹かれました。部活動のけがで、リハビリや部活を休むことの辛さを知っている自分にはぴったりだと思ったからです。ただ、

理学療法を目指す根底にあったのはやはり、漠然とした「福祉に携わる事のできる職業」という意識でした。そのような曖昧な意識の為、高校の頃に憧れた理学療法師を諦め、別の医療職であった看護師を選んだということに、悔しさなどは感じていませんでした。「同じ福祉に関わる職なのだから、どちらを選んでもいいじゃないか」、と言う意識しかありませんでした。入学して彼ら理学療法学専攻の学生を見るまでは、彼らを見た時初めて、「自分はあちら側に立つことのできなかった人間なんだ」、と実感し、自分を惨めに感じました。先生方による学科紹介でも、理学療法の説明が一番派手であり、印象も強く、そのときにやっと、自分の無意識の中に「理学療法>看護」の図式があることに気がつきました。そして、「看護師はとても忙しい職業だから、半端な覚悟じゃやっていけないよ」と知り合いに言われたことを思い出し、「今やっと悔しがっている事に気がついた自分、つまり看護の世界に何か信念ややりたい事を見出していない自分が看護師になれるのだろうか。そもそも、ここに居ていいのだろうか。

か、自分のような存在は、他の看護師を目指している人たちには迷惑であり、全くふさわしくないのではないか」、という気持ちになり、正直看護学専攻を辞めてしまおうかとまで思いました。それでも辞めると言う大きな決断はできず、「とりあえず講義は受けてみよう」、と自分に言い聞かせ、授業に出ることにしました。

そうして、徐々に自分の愚かさに気づいていきました。看護とは、なんと難しく、そして、なんとやりがいのある仕事でしょうか。発展途上にある看護、つまり看護学の未熟さ、それが今自分が看護に魅せられている一番の理由です。その完成に、自分の全てを懸けてみたいと思っています。

本当に、偶然と言っても良い看護との出会いは、自分の人生において、本当に大事で、重要なことであったと思います。これから更に多忙になっていくと思いますが、今の心を忘れず、慢心せず、しっかりと確実に、看護学を学んでいきたいと思っています。

### ホームシック

看護学専攻1年 重信ゆかり

私はここに来て2回ホームシックにかかりました。1回は入学してまもない時、2回目は夏休み帰ってきてからです。

ここに来る前私は、自分はすぐ友達ができるタイプだし、ホームシックの心配は全くないなと思っていました。親や親戚にも、ホームシックになりそうじゃないねと言われていました。ところが長野に来て早々かかってしまったのです。

私が住んでいるハイツは、信州大学生専用のアパートです。そして私の両隣は、私と同じ1年生で、私の暮らしている階は1年生がほとんどでした。隣の子たちから仲良くなっていくんだろうなと思っていました。しかし、私は来てそうそう風邪をひいてしまい、寝込んでいて2、3日家の中をでれませんでした。そしたら、その間に、私の両隣の子達がすごく仲良くなっていて、私の入るすきまがない感じでした。そして、さらに不幸なことに、私の住んでいるハイツの壁はすごく薄くて、隣で楽しそうな声が入ってきて、とりのこされたみたいですごく悲しくなりました。高校の友達に会いたくなかったけど、この県内にはいなく、隣の県にもいないので、島に帰るまでは会えませんでした。そのさびしさや孤独さからホームシックにかかりました。

学校が始まり、サークルにも入り友達もでき、ホームシックは治りました。でも人間関係が深まるに連れて、「えっ」と驚かせる行動をする子や、裏表の激しい人などいろいろな人に関わっていき、育った環境の違いで当たり前なことの違い、人とのつき合い方について悩んでいました。そんな時夏休みが来て実家へ帰ると、自分のことをよく分かっている友達がたくさんいて、やさしい近所のおばちゃんもいて、家族と暮らし癒され、毎日楽しい生活をしました。1カ月と2週間ぐらいうざい、そろそろ長野に帰って学校の準備をしなきゃと思い、ここに帰ってきました。ここへ帰ってきて、夏休みに入る前私を悩ませてた友達に会い、2度目のホームシックにかかってしまい

ました。今度は不眠や食欲不振にまでなり、私は島の友達に電話をすることが多くなりました。友達に電話することですごく楽になり、学校も始まり次第に治っていきました。この2回のホームシックにより、人とのつき合い方を見直すことができたし、今までは身近すぎて気づかなかった奄美の人のあたたかさや、島の良さを実感しました。「ホームシック」はつらいけど、私を成長させてくれるものだと思います。

無題

看護学専攻1年 中沢孝太

私は看護学を専攻しています。しかし高校浪人中に一度も看護学を学びたいとは思いませんでした。ずっと理学療法を目指して勉強してきました。2浪は絶対したくないと思い、センターの点数や同じ医療系だし、しかも地元ということで信州大学の看護学専攻をすべり止めとして受けておきました。数多くの私立大学や他の国立大学の理学療法を受けましたが、すべて不合格になり、この大学だけが合格ということになりました。納得はできなかったけど2浪するよりはいいかなという感じで入学することにしました。

入学してみて、まず大変だと思ったのは通学でした。毎日自宅から自転車で35分かけて通っています。家は山のほうにあり、坂を登って帰るのはとても疲れます。さらに向かい風が強いときは本当に大変です。大学の近所に住んでいる人をうらやましく思っています。通学することに関しては大変だけど、生活するぶんには自宅通いもいいかなと思っています。食事は栄養のバランスがとれたものを作ってくれるし、洗濯も風呂のこともすべてやってもらっています。また、話し相手にもなってもらえるし、家族に世話をかけばなしの生活です。大学生にもなって恥ずかしいですが、近い将来は自立した生活ができるようにしたいと思っています。

授業では、看護のことや人の体のことを少しずつ勉強していきました。最初は看護には全く興味がなかったけど、勉強していくうちにおもしろそうだなと感じました。これからはもっといろんなことを学びたいです。そして将来のことをよく考えていきたいと思っています。

自分が興味を持っている授業はいいのですが、なかには全くおもしろくないと感じる授業もあります。そのような授業でもクーラーのない暑い部屋ですわっていないといけないのは大変苦痛でした。どうにかならないものなのでしょうか。そうはいっても楽しい授業もたくさんあります。とくに高校ではできないような授業は、「大学で勉強しているな」というような感じがしてよかったです。

一年の前期の授業を終えて感じたことは、たくさん学ぶこともできると思うし、たくさん楽しいことがあると思います。でもそれに向かって努力しないと何も得られないんじゃないかなと思いました。せっかく信州大学に来たのだから、いろんなことを得て卒業しようと思います。



## 今、思う事

看護学専攻1年 堀口真紀子

私が看護学という道を選んだのは、幼い頃、僅か15歳の従姉を白血病で亡くした事がきっかけでした。今でもあの時の親戚中の悲しみは忘れることは出来ません。その頃から、私は医療の道に進みたいと考えていました。そして、子供に関係する仕事がしたいとも思っていて、私は初め、小児科の医師を目指しました。その為に、出来る限り頑張りたいと思い、何年か浪人していましたが途中で色々な事があり、一時期自分自身を見つめ直す期間を持ちました。正直なところ、能力の限界を感じたこともありましたが、自分が本当にやりたい事は何かということを考え直したところ、一つの道に固執している事に気付きました。もちろん、一つの道を夢中で追いかける事は大切なことであると思いますし、私はそう信じてやってきました。しかし、行き詰まってしまった時、今の自分には何を目標することが出来るのかを考えることは、とても重要なことであると思いました。そして、見つけたものが助産師という道でした。それは、狭き門ですが私は諦めずに目指したいと思っています。しかし、私にはそれが叶わなくてもまだやりたい事はたくさんあります。初めに目指した通り、子供に関係する仕事はたくさんありますし、子供だけではなく色々な人たちの助けになることは大きな喜びであると思います。夏休みに入った頃、今までずっとやりたいと思っていたボランティアをする機会に恵まれました。それは、1型糖尿病の子供たちと2泊3日でキャンプに行き、そこでの生活を見守るというものでしたが、私にはもちろんまだ専門的な知識があるわけではなかったのに、とても不安でしたが先生や先輩に助けられ最後まで頑張ることが出来ました。そのキャンプでは、普段あまり接することのない糖尿病の子供たちの生活を全てではありませんが知ることが出来ました。そして様々な、かけがえのないものをたくさん得ることが出来ました。このキャンプは来年もあるので、もっと勉強して、また参加したいと思っています。

私は、浪人生活が長かったため、目に見える色々な経験をするにはほとんどありませんでしたが、精神的な部分で色々な経験をしてきました。これからは、今までとは違う困難な事に遭遇するかもしれませんが、私はその経験を生かして乗り越えていきたいと思っています。そして、学生のうちに出来る限りの経験をまたしていきたいです。

## 入学して

検査技術科学専攻1年 加藤好洋

合格発表を目にした日から大学生活というものがあるのか、ひとり暮らし、アルバイト、高校生ではできなかったサークル活動、そして新しい出会いなどに期待と不安で胸を膨らませ入学式まで過ごしてきました。そして、大学生活を始めて4ヶ月経った現在では今までにはなかった新しい感情がいくつか生まれました。

まず1つは、自由と責任は表裏一体であるということです。僕は親元を離れ一人暮らしをさせてもらっています。ひとり暮らしというものは自由で気楽なものと思っていました。しかし、実際は食事、掃除など親がしてくれていたことをすべて自分でしなくてはならないという防犯や防災など自分の身を守ることで、周辺住民に迷惑をかけることなど、大学生として社会の中で生きていくために必要な責任のある行動がたくさんあることを知りました。また、今まであたりまえの存在であった両親のありがたさが身にしみました。両親がどんな思いで僕を大学へ送り出してくれたのかを考え、その気持ちに応えたいです。

2つめは、将来の目標に向かって実際に第一歩を踏み出したことです。僕の在籍している専攻は卒業と同時に国家試験に合格することを目的としています。もちろん、国家資格が必要ない所へ就職する人もいますが、大半の学生は必要としています。そのために高校までの勉強とは異なる高度で専門的な知識や技術を学びます。またそれだけでなく、卒業して臨床の場へ出たときにぶつかる知識や技術では補えない問題についても実際に現場で働いている気持ちで考えなければなりません。避けては通ることができない答えのない問題を考え、結論を導き出すことの難しさを実感しました。これからは覚えるだけでなく考えることができる学生になれるようになりたいです。

次は、大学生活を通して先輩や仲間、先生方などとの新しい出会い一つ一つが自分にとって大切な物になっていくということです。大学での出会いは生涯のものになると言われるように、自分という人間を形成していく上で最も重要な時期に多くの時間をともに過ごしたり、指導をしていただいたりと大きな影響を与えてくれます。勉強や生活にお互い刺激を与え受けながらこれからの4年間の残りを過ごすことができれば良いと思います。

これらの感じたことや考えたことを心に留めて、またこれら以外にも新しいことに挑戦していったり将来のことも視野に入れたりしてこれから始まる学生生活を有意義に送っていけるようにしたいと思っています。

## 大学生になって

検査技術科学専攻1年 下条千枝

大学に入学してから半年が過ぎようとしています。文字通りあっという間でした。信州大学を選んだ事、臨床検査技師という仕事を選んだこと、そして、信州大学で学んでいるということに対して本当に良かったと思っています。私は今、忙しいながらも、とても充実した日々を送っています。

私は幼い頃の父の死をきっかけに、将来は医療に携わる仕事に就きたいと決めました。それからさまざまな夢や希望を経て、最終的にたどり着いたのが、臨床検査技師になることでした。実は、私がこの専門職を知ったのは丁度一年前の高校三年生の夏でした。それまでは違う職種を希望していたのですが、患者さんに特別意識される事はな

いけれど、医療チームには欠くことができない、縁の下の力持ち的な存在のこの職業に私は魅力を感じました。そして、希望通り進学できることが決まり、私は「専門的なことをやっと学べるんだ。」という期待でいっぱいでした。そして実際に始まった大学生活での高校生活との大きな違い、それは「自己責任の重さ」です。授業は登録しなければ、単位はもらえません。学校生活だけではありません。親の元を離れての一人の生活にもやはり自己責任は付きまわってきます。今までの与えられていた生活から、自分から求めなければ得ることが出来ない生活に変わり、初めはとても戸惑いましたが、自分にとってはプラスになっていると思います。

前期の授業は一般教育などがメインでしたが、専門的な授業もいくつかありました。大変といえば大変です、けれど専門的なことを学びたかった私にとって少しずつ新しいことを知っていくのはとても楽しいです。後期からはもっと専門的なことも増えてくるので、自分から意欲的に取り組んで知識や技術を確実に自分のものにしていきたいと思っています。

また授業以外にも、医学部バスケットボール部で活動をしています。中学以来のバスケットや、部活であることに最初は不安もたくさんありました。けれど、今は入ってよかったと思います。学業をおろそかにすることはもちろんよくない事だと思います。ですが、勉強一筋では大切なことを学べないと考えています。部活動やバイトを通して学んだことはたくさんあります。これからも勉強や部活動にと、自分から積極的に取り組んでいこうと思っています。

## 信州大学について

理学療法学専攻1年 田島大地

信州大学では、まず一人一人が時間割を作るという作業をしました。学部、専攻ごとに定められている必修の他に一般教養として、様々な分野における百種類以上の授業が設けられており、自由に受けたい授業を選択できる仕組みになっていました。一般教養の中には集中講義やゼミの様に野外に出たり地域の活動に参加したりする物など、どの学部でも学べないような内容のものもあり、幅広い分野から学習することができるようになっていました。初回の授業はガイダンス形式になっており、授業の意図や流れなどについての説明を聞くことができ、その説明をふまえたうえで選択できたので、授業の選択ミスも少なかったと思います。自分自身で幅広い選択肢の中から何について学びたいかを考え、興味のあることについて学ぶことができたので、何となく受ける授業より、積極的に取り組み、中身のある授業にすることができました。

新入生ゼミナールでは保健学科と医学科が合同でおこない、普段同じ授業がない医学科の人たちや各専攻の人たちを含め大人数のいろんな専攻の目線からの意見を聞くことができる貴重な機会となりました。病院内での患者への対応や医療人同士のコミュニケーションの問題について、ガンの

早期発見するための現在の方法と問題点、手術の方法など命に関わる話をする事で、将来人の命を扱う病院に勤めることの大きな責任や、幅広い知識が必要とされるということを感じました。早い時期にこのような思いをすることができたことを幸いに思い、これからの勉強に高い意識をもって取り組んで行きたいと思いました。

信州大学では勉強以外の時間も充実した時間をすごせます。敷地が広く緑に囲まれているため、学部や部活ごとに花見やバーベキューをする姿や、友達同士でキャッチボールやサッカーをする姿がよくみられます。やはり、授業の中というよりも、このような活動の中で仲良くなっていき、学部や部活が盛り上がっていくことが学校全体の盛り上がりにつながっていくと思います。

このように信州大学では勉強もそれ以外の時間も充実したものにできるので、これからも中身の濃い大学生活にしていきたいと思っています。

## 信州大学に入学して

作業療法学専攻1年 中川真人

私が信州大学に入学してから半年が過ぎ、もう1年の前期が終わってしまいました。独り暮らしに慣れるのに時間がかかり、今まで書いたこともないレポートに追われ、落とせば留年となる試験にプレッシャーを感じ、今なんとか夏休みに入りほっとしています。半年という期間は本当にあっという間でしたが、この短い期間の中で、多くの人と出会い、自分とは違う様々な考え方に触れることができました。そしてその中で悩むことも多々ありましたが、この半年は本当に有意義な大学生活だったと思います。

夏休みに入った今も、忙しいことに変わりはありません。夏休みの課題はしっかりと出ています。そして前期の授業で習った内容を復習し、また後期は余裕をもって試験に挑みたいと思うので、理解できなかった生理学や解剖学の教科書、後期の授業で使う教科書や参考書などを、今のうちからしっかりと読んでおきたいと思います。

私は前期の授業を通して、作業療法士は人の生き方に関わる、責任のある仕事だと感じました。自分の生き方がしっかりしていないと、人の生き方を支援することは到底出来ないと思います。私はこの半年の独り暮らしの中で、今までは親や家族に任せっきりになっていたことや、特に気にしなかったことを自分でやるようになりました。そしてその中で人が自立して生活することは、本当に大変だということを実感すると同時に、自分の生きる力を養うことができたように思います。また作業療法士には、自分の考えを押し付けるのではなく、相手のことを理解し尊重する力が必要であることも知りました。これから作業療法学を学んでいく中で、この半年の経験から学んだことを生かし、相手の立場に立って物事を考え、行動できるように努力していきたいと思っています。そしてその中で多くの失敗があるかもしれませんが、積極的に自分ができている事に取り組み、そしてできないことに挑戦して、作業療法士としてだけでなく、一人の人間としても成長していきたいと思っています。

## 総会記録

### 平成16年度信州大学医学部保健学科 同窓会総会記録

日時 平成16年8月6日(金)15時～16時10分

場所 医学部附属病院東9階会議室

出席者 川上由行(同窓会長)、成沢和子(同窓会名誉会長)、奥村伸生・山崎章恵・柳澤節子・三好圭の各幹事・小穴こず枝・青木朗・上條陽子・三上隆英・高橋亮・星野一夫の各理事、山本良彦・小林利江各同窓会監事、寺澤文子・亀子文子・稲村慶太・大石早知絵・葛本佳以・田中佐知・西川菜緒子・半田憲誉・渡邊正博の各会員、本郷実・松永保子・湯本敦子・坂口しげ子・二階堂敏雄・高宮脩・柳沢理子・藤田清貴・木村貞治・大平雅美・富岡詔子・植田秀穂・上村智子・千島亮・小林正義の各特別会員(特に学生の正会員については、当日の出席者を完全に把握できなかったので、少し漏れがあると思います。)

#### 1. 保健学科同窓会長挨拶

#### 2. 保健学科同窓会名誉会長(学科長)挨拶

#### 3. 議長選出

基礎看護学柳澤節子教員を選出した。

#### 4. 信州大学同窓会連合会について

会長から経過報告があり、資料1・資料2(省略)により説明があった。

千島教員から同窓会の名称について医学部同窓会と医学部保健学科同窓会の整合性について質問があり、会長から他学部の名称についてもいろいろ疑問はあったが正式な構成メンバーに入っていれば別に問題はないのではないのかとの回答があった。

#### 5. 保健学科同窓会会則・会計細則の改定について

平成16年4月1日から独立行政法人信州大学になったため、同窓会会則第6条第2号イ・口の教官を教員へ改正する提案があり、了承された。

同窓会会則第9条第1項に正会員3年次編入生を追加改正する提案があり、了承された。

それに伴い同窓会会計細則の1項及び2項に3年次編入生の会費(4万円)及び使用内訳についての追加改正について提案があり、了承された。

また、同窓会会則附則に平成16年4月1日からの施行についての提案があり、了承された。

#### 6. 平成15年度事業及び決算報告

資料5による会長からの説明の後に、学生から支出欄の翌年度繰越額を会計細則第2条第1項第1号から3号毎に繰越額を計上したらどうかとの発言があり、会長から平成16年度から見直しする旨提案され、承認された。

#### 7. 平成15年度決算監査報告

山本良彦同窓会監事から平成16年7月15日(木)に小林利江同窓会監事と帳簿・証拠書類及び通帳を確認したところ適正に処理されていた旨報告があった。

なお、記念事業等特別積立金は別通帳を開設し管理することも併せて報告された。

#### 8. 平成16年度事業計画及び予算案について

資料6により会長から平成15年度決算に比べ特に環境整備(各教室に扇風機40台設置)に重点をおいた予算案になっている旨説明し承認された。

#### 9. 同窓会総会時の特別講演の変更について

資料7(省略)により変更について会長から説明があった。

#### 10. その他

1) 会長から旧村山医療短大事務長より同窓会に寄付したい旨の依頼があり、理事会で審議した結果会則第6条2号八を適用し特別会員として承認された旨報告があった。

2) 同窓会事務室の設置について、学長から不動産貸付申請書を提出するよう依頼があり、保健学科内の関係委員会に委ねてある旨報告があった。ただし、建物は無償で光熱水道料は有償である旨付け加えた。

3) カーティン工科大学への短期留学補助について、学生の理事から学生向けの報告会を開いて欲しい旨の提案があり、会長から平成16年度から学生向けの報告会及び同窓会ホームページでも見られるようにする旨報告があった。

4) 予算書及び決算書について、看護学専攻2年生から決算書及び予算書を全学生が見られるようにとの提案があり、会長から平成16年度から同窓会だより及び同窓会ホームページに掲載する旨報告があった。

5) 同窓会費未納学生について、同窓会費未納学生について学生の理事から積極的に働きかけてくれること、また、機会を設けて出来るだけ協力していただける旨報告があった。

# 決算書・予算書報告

## 平成15年度医学部保健学科同窓会決算書

平成16年6月30日現在

収入額			支出額		
事項	金額	備考	事項	金額	備考
1. 保健学科 入学生会費	7,260,000	平成15年4月4日迄納入 看護学専攻(70名中57名) @60,000*57名 = 3,420,000 検査技術科学専攻(40名中37名) @60,000*37名 = 2,220,000 理学療法学専攻(18名中15名) @60,000*15名 = 900,000 作業療法学専攻(18名中12名) @60,000*12名 = 720,000 270,000 平成15年4月5日～平成16年3月31日迄納入 看護学専攻(1名) @60,000*1名 = 60,000 検査技術科学専攻(3名) @60,000*3名 = 180,000 理学療法学専攻(1名、分割) @30,000*1名 = 30,000	1. 在校生の教育支援及び 保健学科の運営費補助 図書室開館時間延長経費 320,000 月～金(17:00～19:00) 図書購入費 500,000 看護学専攻 200,000 検査技術科学専攻 100,000 理学療法学専攻 100,000 作業療法学専攻 100,000 カ・ティン工科大短期留学 パソコン購入 220,000 事務処理等人件費 90,000 料理等 卒業・修了祝賀会経費 300,000 銀嶺祭・松本ぼんぼん等 学生課外活動費 143,474 保健学科長へ奨学金寄附金 大学院立上げ活動経費 300,000 キャンパス見学会補助 55,488 小計 2,628,962		
小計	7,530,000		2. 保健学科同窓会分科会 (各専攻単位)運営費 1,140,000 @20,000*57名 看護学関係同窓会 @20,000*37名 検査技術科学関係同窓会 740,000 @20,000*15名 理学療法学関係同窓会 300,000 @20,000*12名 作業療法学関係同窓会 240,000 上記振込み手数料 1,260 小計 2,421,260		
2. 専攻科 入学生会費	79,000	平成15年6月23日迄納入 本学卒業生(4名中3名、75.0%) @5,000*3名 = 15,000 他学卒業生(16名中8名、50.0%) @8,000*8名 = 64,000 32,000 平成15年6月24日～8月15日迄納入 他学卒業生 @8,000*4名 = 32,000	3. 保健学科同窓会運営費 同窓会だより 330,315 6,000部 同窓会総会等経費 40,890 郵便料・交通費・弁当等 消耗品 882 出納簿 小計 372,087		
3. 利息	92	平成15年8月 49円 平成16年2月 43円	4. 翌年度繰越 2,218,783 記念事業等特別積立金含む (400,000円)		
小計	92		小計 2,218,783		
合計	7,641,092		合計	7,641,092	

## 平成16年度医学部保健学科同窓会予算(案)

平成16年6月30日現在

収入額			支出額		
事項	金額	備考	事項	金額	備考
1. 前年度繰越	2,218,783		1. 在校生の教育支援及び 保健学科の運営費補助 図書室開館時間延長経費 320,000 月～金(17:00～19:00) 図書購入費 500,000 看護学専攻 200,000 検査技術科学専攻 100,000 理学療法学専攻 100,000 作業療法学専攻 100,000 カ・ティン工科大への短期留学		
2. 平成15年度 入学者	270,000	平成16年4月1日～6月30日迄納入 看護学専攻 3名*60,000 = 180,000 理学療法学専攻 1名*60,000 = 60,000	学術国際交流推進経費 700,000 卒業・修了祝賀会経費 300,000 入試広報活動経費 200,000 キャンパス見学会経費 50,000 特別講演会経費 500,000 学生課外活動費 200,000 環境整備 1,200,000 大学院立上げ活動経費 300,000 記念事業等特別積立金 800,000 小計 5,070,000 新入生歓迎フェスティバル・ 銀嶺祭・松本ぼんぼん等への参加 各教室の扇機購入		
3. 保健学科 入学生会費	7,440,000	平成16年6月30日迄納入 看護学専攻(77名中65名) @60,000*65名 = 3,900,000 検査技術科学専攻(40名中31名) @60,000*31名 = 1,860,000 理学療法学専攻(20名中13名) @60,000*13名 = 780,000 作業療法学専攻(19名中15名) @60,000*15名 = 900,000	2. 保健学科同窓会分科会 (各専攻単位)運営費補助 1,380,000 @20,000*69名(65名+4名) 看護学関係同窓会 680,000 @20,000*34名(31名+3名) 検査技術科学関係同窓会 300,000 @20,000*15名(13名+2名) 理学療法学関係同窓会 300,000 @20,000*15名 作業療法学関係同窓会 300,000 上記振込み手数料 1,260 小計 2,661,260		
4. 専攻科 入学生会費	143,000	平成16年6月30日迄納入 本学卒業生(3名中3名) @5,000*3名 = 15,000 他学卒業生(17名中16名) @8,000*16名 = 128,000	3. 保健学科同窓会運営費 同窓会ホムペ・シ及び 同窓会報編集会議等 500,000 6,000部 同窓会だより 400,000 総会・理事会・幹事会等 同窓会総会等経費 500,000 71日*8,000(1日8時間勤務) 事務処理等人件費 568,000 通信費 30,000 消耗品 50,000 電気・水道・ガス使用料 50,000 建物使用料は免除 予備費 242,523 小計 2,340,523		
合計	10,071,783		合計	10,071,783	

## 同窓会役員

- 会長：川上由行（信大保健学科）  
副会長：山崎一（南箕輪村役場）  
理事：看護8名：高橋亮・中村真裕子・松本あつ子（信大病院）・三井貞代（信大病院）・伊藤喜世子（信大病院）・  
小山佐伊（日本銀行松本支店）・丸山順子（松本短期大学）・上條陽子（信大保健学科）  
検査4名：三上隆英・石田章子（信大病理組織学）・亀谷清和（信大総合研）・小穴こず枝（信大保健学科）  
理学2名：星野一夫・森本正道（竹重病院）  
作業2名：山口勝也・青木朗（信大保健学科）  
幹事：奥村伸生（信大保健学科）・山崎章恵（信大保健学科）・柳澤節子（信大保健学科）・三好圭（信大保健学科）  
監事：山本良彦（長野医療技術専門学校）・小林利江（信大病院）  
アンダ・ラインは、保健学科の学生から選出された理事

## 信州大学医学部保健学科同窓会会則・細則

一部変更がありますのでご確認下さい

### 信州大学医学部保健学科同窓会会則

#### 第1章 総則

- 第1条 本会は、信州大学医学部保健学科同窓会（以下「本会」という。）と称する。  
第2条 本会は、事務局を松本市旭3丁目1番1号信州大学医学部保健学科内に置く。  
第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その発展に寄与することを目的とする。  
第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。  
一 会員の親睦及び研修に必要な事項  
二 母校の発展に関する事項  
三 その他必要と認められる事項  
第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。  
2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

#### 第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。  
一 正会員  
イ 信州大学医学部附属看護学校、信州大学医学部附属助産婦学校、信州大学医学部附属衛生検査技師学校、信州大学医学部附属臨床検査技師学校の卒業生  
ロ 信州大学医療技術短期大学の在學生及び卒業生  
ハ 信州大学医学部保健学科（以下「本学科」という。）の在學生及び卒業生  
二 特別会員  
イ 本学科教員  
ロ 本学科元教員  
ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者  
第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。  
第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会におい

て出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。  
第9条 正会員は、会費として6万円を本学科入学時に納入するものとする。また、3年次編入生については編入時に4万円納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費その他の拠出金は返還しないものとする。

#### 第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。  
一 会長 1名  
二 副会長 1名  
三 理事 16名（看護8名；検査4名；理学2名；作業2名）  
四 幹事 若干名  
五 監事 2名  
第11条 役員は、次の職務を行なう。  
一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。  
二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。  
三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。  
四 幹事は、本会の実務に当たる。  
五 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。  
第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。  
一 会長は、総会において正会員の中から選出する。  
二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。  
三 理事は、正会員の中から各専攻毎に選出し委嘱する。  
四 幹事は、会長が委嘱する。  
五 監事は、総会において正会員の中から選出する。  
第13条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。  
2 補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。  
3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行なうものとする。

## 信州大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 第4章 名誉会長及び顧問
- 第14条 本会に名誉会長を置き、本学科の学科長を推戴する。
- 第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

### 第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
- 一 事業及び決算報告
- 二 事業計画及び予算
- 三 会則の制定及び改廃
- 四 役員を選出
- 五 顧問の推挙
- 六 その他の必要事項
- 2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
- 第17条 会長は必要と認めたととき、臨時総会を開催することができる。
- 第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
- 第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
- 第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。
- 第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
- 第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。
- 第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。
- 第24条 理事会は、会長が必要と認めたととき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
- 第25条 理事会は、会長が召集し、議長となる。
- 第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
- 第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

### 第6章 会計

- 第28条 本会の経理は、会費及び寄付金その他の収入をもって充てる。
- 第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

#### 附 則

この会則は、平成15年4月1日から施行する。  
この会則は、平成16年4月1日から施行する。

1. 同窓会費は6万円とし、本学本学科入学時に一括納入することを原則とする。また、3年次編入生については、編入時に4万円を納入するものとする。ただし、本人からの申し出があった場合は、同窓会理事会が分割払いを認めることができる。
2. 本学科同窓会費6万円の使用内訳は、次のとおりとする。
- ただし、この枠を越えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
- (1) 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に關すること。 3万円
- (2) 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に關すること。 2万円
- (3) 医学部保健学科同窓会としての運営に關すること。 1万円
- また、3年次編入生の同窓会費4万円の使用内訳は、次のとおりとする。ただし、この枠を超えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
- (1) 在校生の教育支援及び医学部保健学科の運営に關すること。 1万5千円
- (2) 保健学科同窓会分科会(各専攻単位)の運営に關すること。 2万円
- (3) 医学部保健学科同窓会としての運営に關すること。 5千円
3. 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
4. 幹事代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、会計担当幹事が通帳・印鑑を管理する。
5. 同窓会費の徴収は、入学時に行ない、徴収後は速やかに同窓会費支払者リストを作成する。
6. 会計担当幹事は、会計年度終了後に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
7. 本細則の改正は、同窓会総会で行なう。

#### 附 則

この細則は、平成15年4月1日から施行する。  
この細則は、平成16年4月1日から施行する。

## 編集後記

医療短大の学生だった頃は、信州の夏は蒸すような暑さがなく、日陰に入れば涼しく、とってもしやすかったように思いますが、今年の夏は、日本全国で記録的な猛暑が続き、あまりの暑さに、授業にも支障が出てしまうほどでした。そこで、学生からの要望もあり、今年は保健学科同窓会から扇風機を寄贈し、各教室と実習室に置かれるようになりました。これからも、保健学科同窓会では学生が過ごしやすい環境作りのサポートをしていきたいと思っていますので、皆様からのご意見、ご要望をお待ちしています。

信州大学医学部保健学科理学療法専攻 三好 圭